

保護者の皆様

本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。  
 本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。  
 今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

芦原小学校長 山岸 直樹

# 令和7年度 芦原小学校学校評価書

▲は目標指数を達成できなかった項目

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健康・安全	①家庭と連携し、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の定着に取り組む	教職員	児童や家庭に啓発を積極的に行った	90	100	○目標値にはわずかに達していないが、昨年度(83%)よりも数値が上がっているのは、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」週間の生活チェック表からも、早寝を意識する児童が増えたためだと考えられる。	・1月より生活チェック表(3回目)に、寝る時間が遅くなった場合の理由欄を設け、早寝を意識づけられるようにする。 ・朝ごはんの大切さについて学ぶ機会を1・2年生以外でも設ける。	・「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」本来は家庭が担うべき事柄なので、外部講師を招いた学習会を保護者にも公開するのは良い。 ・学校と家庭が連携し、生活習慣の改善に継続して取り組まれていることを評価します。 ・今後も家庭との情報共有を大切にしながら、継続的な取り組みを期待する。
		児童	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができるように気をつけている	90	89▲	○1・2年生では、朝ごはんの効果を知る機会を得て、資料を活用し、朝ごはんの大切さを学んだ。	・外部講師を招いて睡眠に関する学習を行い、保護者にも参加を促す。	
		保護者	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができていると思う	80	84			
	②健康安全指導と防災訓練を通して、危険から身を守る力を高める	教職員	きめられた約束事の指導を熱心に行った	90	100	○教職員による日常的な指導、保健指導等で継続的に健康安全指導を行うことができた。 ○防災訓練では、地震による火災を想定した訓練を実施した。	・情報モラルとスマートルールについては、今後も児童及び保護者にその重要性を周知していく。 ・防災避難訓練は様々な状況を想定した実践的な訓練を引き続き実施すること、児童一人ひとりの危険から身を守る力を高めていく。	・昨今のSNSにまつわる事件や問題行動、AIの普及をみると情報モラル教育は非常に大切であり、継続して取り組みの強化をお願いしたい。 ・情報リテラシーについては、テストを行うなど、厳しく行ったほうがよい。
		児童	きめられている約束事を守っている	95	87▲	○4～6年生は、情報モラルについて学校保健委員会(SNSについて)で学ぶことができた。 △児童が学校でのきまりを守る意義について、理解が不十分であった。	・学校でのきまりの目的を児童に伝えて理解させる。	・情報モラル教育については、家庭と連携している点を評価します。 ・きまりを押しつけるのではなく、理解させるという考え方に共感する。
		保護者	約束事を守っていると思う	80	88	△情報モラルとスマートルールに関して、実際の行動に個人差がみられる。		
	③業間活動(マラソン・縄跳び)を充実させる	教職員	児童への意識づけを十分行った	90	100	○ほとんどの児童が業間活動に意欲的に取り組む様子が見られた。マラソンカードやなわとびカードを活用することで子どもたちの意欲も高まった。	・今後も継続して業間活動を実施し、ホームページや学校公開等で保護者に児童の様子を発信していく。 ・マラソン大会当日だけでなく、普段の練習から苦しいことに挑戦する気持ちを維持できるような工夫をしていく。	・児童が意欲的に体力づくりに取り組んでいる様子が見られる。個人差に配慮した声かけや工夫を期待する。 ・マラソンは大切な学びの場である。向上策をぜひお願いしたい。 ・挑戦に対する土台を培う年齢である。無理の無いように継続してほしい。
		児童	マラソン大会で記録がよくなるように、取り組んでいる	95	90▲	△マラソン大会で、個人の記録が伸ばせるような取り組みが不十分であった。		・児童一人ひとりの努力や成長を大切にしている工夫が感じられる。
		保護者	意欲的に取り組んでいると思う	80	84			・マラソンやなわとびなど練習時間が足りない。 ・マラソン大会は、年2回に戻してほしい。
確かな学力	①学びを支える学習ルールを身につけ、基礎学力の定着と向上に努める	教職員	漢字や計算の練習を毎日実施し、その点検を行っている	90	100	○どの学年も家庭学習で基礎基本を中心とした課題を設定し、取り組んでいる。6年生は、中学校へのつながりも考慮して、家庭学習の課題は、特に自主学習ノートを使って自分で課題を見つけて取り組めるようにした。	・今後も引き続き家庭学習を中心に漢字や計算の練習に取り組ませていく。 ・次の学習につなげていけるように、それぞれの児童に合った学習の仕方を提示していく。 ・学習支援アプリを引き続き活用する。	・家庭学習の課題提示や点検により、学習習慣の定着が進んでいる。児童の実態に応じた支援をさらに充実させてほしい。 ・授業公開を拝見し、先生方が工夫して授業づくりをされており、児童も落ち着いて学びに向かっていた。
		児童	漢字や計算の勉強に取り組んでいる	90	80▲	○学習支援アプリの活用が、習慣化してきている。	・マスターテストは各自がどの程度漢字や計算の力が定着しているのかを確かめる機会とし、定着を図っていく。	・学力向上に向けた取り組みが着実に進められていると感じます。
		保護者	漢字や計算の勉強に取り組んでいると思う	80	86			・それぞれの児童の学力に応じた学習のしかたを、家庭と協力して進めてほしい。
	②国語科教育を核として、言葉の力や思考力・表現力の育成等を行う	教職員	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている	100	100	○定期的に教員同士で各自の取り組みについて情報交換を行ったり、互いの授業を参観し意見交換をしたりして、授業改善に努めることができた。	・毎時間の授業の「めあて」を明確にし、学びの過程が視覚的に捉えられるようにする。 ・児童が自分の考えを表現できるような場(自分の考えを書く・まとめるなど)も取り入れていく。	・話し合いや意見交換を重視した授業づくりが進められており、子どもたちが自分の考えを表現する力を伸ばしていると感じている。
		児童	授業が分かりやすく、楽しいと思う	90	88▲	○国語の学習に限らず、どの授業でも児童が自分の考えをもって授業に参加できるように、ペアトークやグループで話し合い、意見を練り合う活動を多く取り入れた。	・児童が自分の学習状況を理解し、自分に必要な課題を選んだりヒントカードを活用したりして、自分で学習を進めていけるような授業を増やし、学習の個別最適化を図っていく。	・校内研修や授業研究に継続して取り組み、授業改善を進めている点は高く評価できます。 ・個々の考えを深め合う学習の充実、個に応じた指導の工夫を期待します。
		保護者	日々の学習内容をよく理解していると思う	80	81			・これからの時代に最も重視される「自分の考えを表現できる」子どもの育成をお願いしたい。 ・個別の配慮も必要である。
	③全ての教科でICT機器の活用に取り組む	教職員	話し合い活動や発表活動を計画的に実施し、見直しも適宜行っている	90	80▲	○児童は、自分の考えをまとめる互いの考えを共有したりする場面などで、タブレット端末の機能を有効に活用している。	・児童がタブレット端末の操作に慣れ、よりスムーズに使いこなせるように、学年に応じたスキルを身につけさせていく。	・タブレットで「検索」することは非常に慣れている一方で、プレゼン資料の作成スキルは改善の余地がある。
		児童	自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりすることが、できている	90	85▲	○ICT機器の活用については、教員間での情報交換や具体的な活用方法についての研修会などを通してスキル向上に努めた。	・教員用のタブレット端末のスペックが児童用のと比べると低く、インターネットにつながりにくいなどの問題があるので、学習効果や学習効率の向上のため、さらにICT機器の環境が整うことを期待する。	・タブレット端末を活用した授業が定着し、学習への意欲向上につながっていると感じています。 ・教科や場面に応じた活用をさらに進めてほしい。
		教職員	ICT機器(パソコン、電子黒板、タブレット)を活用した授業を行っている	90	94			・「自分の意見を言ったり～」の児童評価が下落しているのが残念。認め合う、学びあう授業づくりに引き続き取り組んで欲しい。
		児童	タブレットを使って学習することが楽しい	90	95			・市には、相応の性能のタブレットを準備してもらいたい。 ・ICTも大事だが、活字に触れる機会も確保してほしい。
	④朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実し、本を手にする機会を増やす	教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを行っている	90	86▲	○各クラスには、定期的に芦原図書館から30冊程度の本を借りて置いてあり、読書タイムや隙間時間などに熱心に読書する姿が見られた。	・ボランティアによる読み聞かせや芦原図書館司書によるブックトークなど、児童が本に出会える機会を設け、今後も続けていく。	・活字離れが進む中、読書週間の改善は難しい課題である。児童の数値には向上がみられるので、取り組みを地道に続けてほしい。
		児童	学校や家で(マンガや雑誌以外の)本を読んでいる	80	54▲	○教員や児童のおすすめ本を図書室に並べたり、朝読書の時間は教員も一緒に読書したりした。	・家庭においても親子で読書に親しんでもらえるように、読書月間等に「親子で読書」を今後も継続していく。	・学校全体で、読書活動が推進されており、本に親しむ機会が確保されている点を評価します。
保護者		学校や家庭で本を読んでいると思う	80	36▲	○11月の読書月間に合わせて「校内読書週間」を設け、家庭においても親子で読書に取り組んでもらった。 △あまり本を手にとらない児童もいて、よく読んでいる児童とそうでない児童とで二極化している。		・紙ベースの文字が少なくなってきた。読書習慣が身につくよう取り組みを進めてほしい。 ・本好きの児童を増やすために、「福井県ジュニア司書養成講座」(高学年対象)が有益である。保護者向けに告知してはどうか。	

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心・特別支援	①「いつでも、どこでも、何度でも」を合言葉に「明るく元気なあいさつ」を推進する	教職員	挨拶や返事の指導を意図的・計画的に行っている	90	100	○朝や帰りに自ら挨拶できる児童が多い。 △「いつでも・どこでも・何度でも」あいさつする意識は薄い。	・「いつでもどこでも」の意識が高まるよう、努めて教職員もあいさつをするようにする。 ・生活委員会の朝のあいさつ運動は継続する。 ・明るく元気なあいさつができるように、「あいさつ頑張りカードやシール」など意欲付けになる工夫をしていく。	・「いつでもどこでも」できる挨拶を目標に、継続した指導を期待します。 ・朝、子どもたちから、元気に挨拶をされます。 ・朝の登校中の挨拶が、できていないことが多く感じます。 ・あいさつ指導や、思いやりを育てる取り組みが日常的に行われており、学校全体の雰囲気づくりに寄与していると感じています。 ・班長が率先してあいさつすることが大切である。
		児童	あいさつをしたり、返事したりしている	95	91▲			
		保護者	挨拶したり、返事をしていたりしていると思う	80	83			
	②思いやりの心・認め合う心を育て、笑顔溢れる学校になるよう学校行事、縦割り活動、「なかよしタイム」を通して、心の居場所づくり、絆づくりに取り組む	教職員	思いやりや感謝の心を積極的・計画的に指導している	90	100	○なかよしタイムの活動を児童たちは楽しみにしている。 ○なかよしタイムの内容を掲示した物を児童や保護者が目にしやすい場所に掲示した。 △なかよしタイムでの学びが、日常生活の中でなかなか生かされない。	・全校で年間を通じて、計画的に毎週取り組むのは人間関係づくりに一定の効果が見られるので、継続していく。 ・なかよしタイムの活動内容を保護者が見る機会があると良い。 ・なかよしタイムのようなSSTの要素を授業に取り入れられると、より学校での人間関係づくりに役立つ。 ・縦割り班で行う活動をもう少し増やし、助け合ったり教えあったりする中で思いやりや感謝の心が育まれるようにする。	・芦原小が長年「ソーシャルスキル教育」「ピアサポート活動」を継続している効果が現われている。保護者に見てもらえる機会もあるとよいと思う。 ・「レジリエンス教育」も加えた「ポジティブ教育」を参考に充実させてほしい。 ・縦割り活動を通して、仲良くなるのはよいが、名前の呼び捨てはしないなど、基本的な礼儀などはしっかり学んで欲しい。
		児童	相手の気持ちを考えて話したり行動したりすることができている	95	90▲			
		保護者	思いやりや感謝の心が育ってきていると思う	80	92			
	③良好な人間関係を築く力や自己肯定感を培い、いじめと不登校の未然防止に努める	教職員	いじめ防止等の対策にしっかり取り組んでいる	100	100	○保護者にいじめ友だち関係アンケートを行い(2回)、保護者懇談会で児童の困り感を聞き取ることができた。また、児童には毎月アンケートを行い、面談を通して児童の内面を聞き取り、よりよい学校生活を送れるように支援した。 ○2年生以上の全員面談をSCが行った結果、担任では聞き取れなかった情報を得ることができ、きめ細やかな支援につながった。 ○弁護士による「いじめ予防授業」を行い、人権を守る大切さを学ぶことができた。 △自分の言動を相手はどう受け止めるか、まだ深く考えることができない児童がいる。	・終礼で情報を共有し、担任だけでなく、チームで個々に応じた細やかな支援をしていく。 ・SC、SSTと連携して、情報共有をしっかり行う。 ・SCの全員面談の効果は大きいので、次年度も計画的に継続していく。	・SNSなどでいやな気持ちになる子の話をよく聞く。情報リテラシーを踏まえ、見えない場所での「いじめ」にどう対応できるか、保護者も含めて話せるとよい。教員だけでは荷が重いと思う。 ・いじめ防止に向けた取り組みや、相談体制が整えられており、保護者として安心感がある。 ・いじめのきざしの段階で気づき、支える体制を。 ・相談しやすい、様々な相談先があるのが望ましい。 ・「人権」は多くの意味があり、難しいところもあるが、人権教育は定期的に取り組んでほしい。 ・気になる児童への個別指導・対応は大変だと思うが、SCの全員面談をはじめ、連携が機能していること、事案にチームで対応していることが継続されて素晴らしい。
		児童	友だちにいやなことを、言ったりして思っていないと思う	95	87▲			
		保護者	いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいると思う	80	91			
開かれた学校・連携	①ふるさとあわらに愛着心を持ち、ふるさとを大切に育てる子や育てるため、ゲストティーチャー、地域、学年間との連携をさらに深めた体験的学習に取り組む	教職員	ふるさとに愛着をもつ指導や活動に取り組んでいる	90	83▲	○校外学習の機会を数多くもつことができた。 ○地域人材をゲストティーチャーを招いたふるさと学習を実施した。(「あわらの自然を愛する会」「食生活推進委員」「JA婦人部」「市健康長寿課」「市社会福祉協議会」) ・6年「あわらの宝」CM作り ○何をどのように伝えれば、受け手の心に響くか施設担当者への撮影交渉など主体的に行動し、ふるさとへの思いと課題解決能力を伸ばした。 ○実際に現地に出向くことで、 ・子どもの視野が広がった。 ・ふるさとへの理解が深まり、愛着を感じられるようになった。 ・さらに、地域を良くするために、自分たちで何ができるかを考えるようになった。 ・自分事として、あわら市のことを考えられるようになった。	・総合学習担当が中心となり、総合学習(ふるさと学習)について、各学年の記録を残し、年度振り返りと改善を行い、次年度につなげる。 ・教科横断的に、ふるさとについて学ぶ機会を作っていく。	・ふるさと教育のおかげで、他県に旅行した際に、他県とあわら市の違いに気づいたり、学ぶ機会になっている。子どもたちのふるさとに関する知識は大変深いと感じている。 ・児童がふるさとに関心を持ち、誇りを感じている様子が伝わってくる。家庭でも、地域について話す機会が増えており、非常に意義ある取り組みだと感じている。 ・「実際に見て触れる校外学習」「地域人材からの学び」の機会を増やし、ふるさと学習に力を入れていることが伝わります。 ・ふるさとのことを学ぶことができる小学生の時期に、より多くの体験ができるよう期待します。 ・社会教育の場面でも、家庭の参加を促してほしい。 ・年齢を重ねても薄れてしまわないように、小学生の時期こそ「ふるさと学習」は大切です。 ・学んだことを、様々な場で発表し、アウトプットする力、プレゼン力をつけることが大切である。
		児童	ふるさと学習を通して、あわら市のことが好きになった	90	95			
		保護者	あわら市のことが好きになっていると思う	80	92			
	②学校の教育活動の様子や情報を積極的に公開する C4thHome&School、各種たより、ホームページを活用し、丁寧な情報発信を行う	保護者	学校公開等により、子どもたちの様子が分かった	90	87▲	○今年度4月より、新学校ホームページが運用開始し、学校から、家庭へ配信する情報が一元化され、利便性が向上した。 ○学校行事など、児童の様子もタイムリーに配信できている。	・学校公開日の日程について、曜日分散することによって、保護者が参加しやすいよう調整する。	・学校の様子が、ホームページなどで分かりやすく発信されており、保護者にとって有益です。さらに見やすい工夫や、タイムリーな発信を期待します。 ・お知らせのデジタル化によって、保護者はよく見てくれるようになっていく。 ・有給休暇が取得しやすい時代になりました。より保護者が参加しやすくなるように配慮してほしい。
		教職員	情報を迅速・正確に発信している	90	88▲			
		保護者	知りたい情報を知り得ることができた	90	91			